

特集 第75期がスタート

社長・部門長の次なる一手

次なる
一手

誠心



HAMADA

誠心



HAMADA



HAMADA



HAMADA



[特集] 第75期がスタート

社長、 部門長の次なる一手

8月1日から、当社の第75期がスタート。前期の振り返りと今期への思いを、社長に聞きました。私たちの目指すべき未来に向け、さまざまな扉を開いていきましょう。また、「健康のために心掛けていること」についても教えてもらいました。

TOP INTERVIEW

第75期は中期経営計画の最後の期 課題解決や成果を棚卸しする一年に

第74期も多くの変化があった一年でした。2月には半導体事業部門を分社化し、ハマダレクテック(株)を設立。5月末には5年ぶりに全社からお集まりいただき、創業125周年記念式典を皆さんと共に祝いすることができました。コロナ禍を乗り越えて、皆さんの元気な姿に触れ非常に感慨深いものがありました。

第74期の当社を取り巻く事業環境は決して良いとはいえませんでした。各部門長ならびに社員一人ひとりのきめ細かな仕事の獲得をはじめとした努力により、期計画を上回る実績を残されたことに感謝いたします。これからも、外部環境に左右されない収益構造とそれを継続的なものとするべく、当社の経営資源である「人」「技術」を育て、さらなる事業基盤の強化を目指します。そして、経営会議をはじめ本社業務推進計画や鉄鋼事業戦略会議を通して推進し着実に形にしていきたいと思っております。

今期、第75期は中期経営計画の最

代表取締役社長
松本 豊



後の期であり、課題解決や成果を棚卸しする1年となります。エネルギー価格や物価の高騰、自然災害、国内外の政治、国家間の紛争などへの懸念は依然として変わっておらず、第74期と同様に国内外の情勢や事業環境の変化に柔軟に対応しながら事業を推進します。変化があるということは同時に機会もあると捉えて、将来に目を向けた外部技術・知識の活用、情報収集や生成AIの活用・検討にも積極的に取り組んでいきます。

**指差呼称確認や
相互注意・声掛けで
自らと仲間を守ることを
“特に行動に移すときに意識”**

2024年4月には「定年延長制度」を開始する予定です。労働力人口の減少や年金の支給開始年齢の引き上げに対する雇用の確保、現場力の維持・

向上などの観点から、労使の認識が一致しこれまで検討を重ねてきました。より良い仕組みを目指して就業規則の見直しや新しい人事・給与制度の協議も進めており、若手・中堅・シニア全員のモチベーション向上につなげると共に、全社で持てる力を発揮しやすい環境を構築したいと考えています。

安全について第74期を振り返りますと、ここまで49件(熱中症も合わせると55件)の災害が発生しており、危機的状况と言わざるを得ません。そのほとんどの要因が、確認不足や不用意な行動、管理不備であり、少しの注意や確認、一呼吸で防げたものです。私たちは2022年5月に、もう二度とつらく悲しい思いをしない・させないことを誓い、「基本の徹底」という原点に立ち返り、安全・安心して働くことができる職場の再構築を目指してきましたはずです。このことを再度肝に銘じ、指差呼称確認、仲間同士での相互注意・声掛け、管理・監督者による注意喚起・指導、これらの基本を

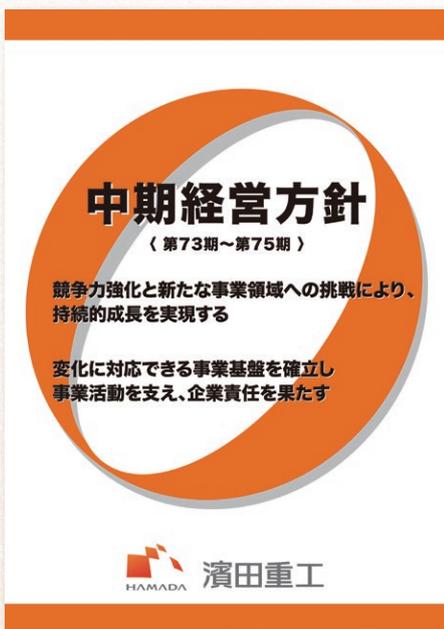
日々繰り返し実践し、自らと仲間を守ることを“特に行動に移すときに意識”するようお願いします。

今年はや早い時期から酷暑が続いています。例年通りのきめ細かい熱中症対策で、9月も乗り切っていきましょう。ご安全に!

＼健康のために /
「腹筋ローラー」



今春から週に数日、膝をついたままではありますが30回程トレーニングをしています。若干効いているような、気がするだけでもいいかもしれませんが、これからも続けていきます。



中期経営方針
(第73期～第75期)

競争力強化と新たな事業領域への挑戦により、持続的成長を実現する

変化に対応できる事業基盤を確立し
事業活動を支え、企業責任を果たす

HAMADA 濱田重工

中期経営計画

<第73期～第75期>
(2021.8.1～2024.7.31)

■ 企業理念 ■ スローガン
誠心 誠心 OUR PRIDE

■ 中期経営方針

- ① 競争力強化と新たな事業領域への挑戦により、持続的成長を実現する
- ② 変化に対応できる事業基盤を確立し事業活動を支え、企業責任を果たす

中期経営方針ポスター

背景の0(ゼロ)は、災害ゼロ、交通事故ゼロ、コンプライアンス違反ゼロ、カーボンニュートラル(ゼロカーボン)をイメージしています。

変化に対応した部門長の決意

技術提案・技能で総合的に多方面で貢献

安定操業を支援し 各方面で評価をいただく

【表彰】

九州製鉄所八幡地区において、製鉄工場では2022年度第2四半期および第4四半期それぞれで、戸畑4高炉が低コークス比新記録を達成。また、コークス工場では、2022年度第4四半期に最高齢炉における生産安定化(押し詰り本数低減)への貢献に対して、所長から感謝状をいただきました。これらは、誠心誠意業務を継続し、両工場の長期安定操業を支援できたことへの成果と考えます。

【業務】

安全面では、休業災害ゼロを達成できたことは大きな成果ですが、2023年度でルール違反ではないものの、もう少し慎重に行動できていれば防げた可能性がある不休や、軽処置災害が多く、注意喚起、声掛けを継続する必要性を感じています。

製造実力向上業務では、①溶湯作業の見直しを含めたサイドダンプ業務の移管受け②コークス課、製鋼課などの業務評価の見直しなどを関係先と連携して推進できたことは、八幡支店の強みを生かした事案でした。さらに、輸送機械自動運転化やCO₂分離回収作業試験作業など、将来に向けた新規取り組みも推進中です。

【変化点】

2023年5月に九州製鉄所八幡地区で、高炉プロセスから電炉プロセスへの

転換について本格検討を開始することがプレスリリースされました。日本製鉄(株)殿のカーボンニュートラルの実現に向けた動きであり、八幡支店の大きな変化点と捉え、培ってきた技術や技能を生かし、時代に取り遅れることがないように取り組む時期がきました。

遅滞なく情報を収集し 効率化・環境変化への 対応を適切に行う

【安全面】

第75期も休業以上の災害ゼロを目標として、日本製鉄(株)殿の「選択と集中と評価」による余力時間を活用して現場に出向き、安全6則遵守の浸透をベースに職場の安全弱点を克服できるように取り組んでいます。

【製造実力向上業務】

日本製鉄(株)殿は、新中期計画に沿った大幅な構造改革を推進し、鉄鋼産業を取り巻く環境が悪化し、生産レベルが低下した中でも過去最高水準の利益を維持しています。その中で、安定生産力の回復、設備管理力の強化、コスト競争力の改善、さらには脱炭素化の推進に取り組み、高みを目指しています。八幡支店は、これまで通りに安定操業支援をベースに、輸送、エネルギー、発生ダスト処理作業の一元管理を行い、作業効率向上、インフラ計画への提言、

輸送機械自動化を積極的に推進することで、総合的に多方面で貢献できるように取り組んでいます。

また、高炉プロセスから電炉プロセスへの転換についての検討については、製鉄所の動きを注視し、遅滞なく情報を収集し、適切な対応が取れるようにしていきます。

健康のために / 「スポーツジム通い」



自宅から歩いて1~2分で行けるフィットネスクラブ

大分へ転勤となり、コロナ禍で運動を控えていましたが、先日の八協会野外行事で、九州製鉄所中田所長に待っていただきながら、登山をして体力の無さを痛感しました。現在は心を入れ替えてジムに通っています。

八幡支店長
西原 一浩

第75期のスタートにあたり、事業部門長に前期の振り返りと、新中期経営計画を踏まえた第75期の重点課題と抱負を聞きました。部門長の「新たな方針」をもとに、私たち一人ひとりが目標に向かって前進し、新たなステージへと進んでいきましょう。

従来の仕事の枠組みを超えた発想と提案を

期計画を上回る売上の確保は全員の努力の成果

第74期は、3期連続で休業災害以上ゼロの継続は達成できたものの、不休、軽処置など8件の災害を発生させてしまいました。より安全で働きやすい環境整備を推進していくとともに、一人ひとりが災害ゼロを目指して、安全意識の向上を含めた安全活動の一層の強化が必要であると痛感しました。

一旦は回復基調にあった生産は、今年1月から大幅な減産が継続し、期トータルでは対計画73%、今年1月からは約60%と、かつてない規模の低生産となりました。その中でも、定常作業の減少を臨時作業の獲得や大型工事の受注などでカバーし、期計画を上回る売上の確保ができたことは支店全員の努力の成果であり、これまでの仕事を主幹部

門から評価していただいた結果であると感じています。

多能工化と効率的な人員配置 新規作業の獲得で乗り切る

安全に強い濱田重工と言われるように、一人ひとりの意識改革と安全活動に最大限取り組んでいきます。今期、少なくとも年内は、足元の低生産状況が継続する見込みです。大型工事の受注も、多くは見込めない中、いかに効率的な支店運営を図り、収益の確保につなげるかが大きな課題となります。多能工化の推進や効率的な人員配置、新規作業の獲得などで、従来の仕事の枠組みを超えた発想と提案を行い、お客さまの信頼を得つつ、収益確保を図っていきます。

＼健康のために / 「テニスとゴルフ」



後ろ姿だけはプロ並み?(笑)

ついやりすぎにはなっていますが、下手の横好きのテニスとゴルフを継続しています。マンネリ化防止のため、プロゴルファーのテレビ中継のようなボールの軌跡を描いてくれるアプリなどを使って楽しんでいます。



光支店長
榎野 伸幸

個々の力を高めつつ、チームワークで課題解決を

第74期休業災害ゼロを達成 「動作・作業の基本」の定着

第74期中の休業災害ゼロを達成できました。これまで活動してきた「自主安全活動」や「体質強化パトロール」をはじめとする取り組みが実を結んだものと考えています。これらの活動は、君津支店の安全の根幹を支えるものであり、今後もぶれずに継続していきます。

一方で9件の不休・軽処置災害の発生があり、まだまだ君津支店の安全実力は、十分とはいえません。これら災害のほとんどは「過去に類似の事象があった災害」であり、8割は「手元・足元に関する災害」です。第74期に作成した教本「過去災害を教訓とした動作・作業の基本」を活用し、「どういう場面で、どういった災害を想定し、何に気をつけるか」を、君津支店で働く全ての人が理解し、実際の作業の中でそのとおりに行動できるようになることを目指して、安全活動に取り組んでまいります。

新1サブセンターが完成 ますます、活気と働きがいのある 支店を目指して

第74期の事業環境については、東日本製鉄所殿の生産量が当初見込んでいた量に届かず、厳しい状況が続きました。また、君津地区の環境問題や設備健全化ニーズの高まりを受け、多能工化による環境整備要員の拡充や、整備・工事要員の新規確保による対応力

強化を進めてきた1年でもありました。

第75期においても、しばらくは厳しい事業環境が続くものと予想されます。また、安定操業に欠かせない環境整備や設備健全化の加速、コスト削減達成に向けたエンジニアリング推進、CO₂排出削減に向けた取り組みへの参画、それらの基盤となる人材の確保・育成など、君津支店が取り組むべきテーマは盛りだくさんです。個々の力を高めつつ、支店全体のチームワークで課題解決を図っていかねばなりません。

8月には新1サブセンターが完成し、連携強化の環境が整いました。これを一つの契機に、ますます、活気と働きがいのある君津支店にしていきたいと思っております。

君津支店長 江藤 隆



＼健康のために / 「山歩き」

ズボンのサイズが気になりだした5～6年前から山歩きをしています。道中の川や滝、神社仏閣、珍しい草木などを眺めながら歩くことで、よい運動になります。その後の食事も、罪悪感なく、おいしく頂くことができます。



箱根から見た富士山



昇仙峡(山梨県)の滝

本社・他支店と協働で組織的な改革に取り組む

過去にはない売上と収益は 努力と苦労の結果

第74期は、5.06重大災害からの復興を第一の目標に、特別安全活動を完遂しました。しかしながら、活動中にもかかわらず、不慮災害をはじめ多くの事案を発生させてしまい道半ばです。災害の連鎖を断ち切らなければなりません。収益面は、納期どおり構外の大型工事を無事に完成し、焼結作業エリアの拡大もあって、過去にはない売上と収益を上げることができました。支店の皆さんの努力と苦労の結果であり、感謝します。一方、その代償に、繁忙疲労感・災害の連鎖・離職増加と人や組織が、喫緊の課題となりました。

この対策に、他支店や本社の支援を受け、大分支店を強くする活動を実施中です。設備面では、2高炉改修時期は未定ですが、水砕設備の直営資産

化により、老朽設備の保全延命に直協連携で取り組む体制ができました。

ルールと規律を守り 互いに助け合って仕事を行う

第75期の課題は、まずは人と組織の強化です。今の仕事の改善も新しい仕事の獲得も、人と組織がしっかりしていることが前提です。遅れている焼結作業エリア拡大の完了、新たな2高炉落砕清掃の確実な進捗のためにも、再度、足元を固めていきます。その中で、安全で働きやすい作業環境を目指して、省力化技術の適用にも積極的にチャレンジします。さらには、大分支店の長年の懸案であった請負契約形態の改善に向け、本社・他支店と協働で組織的な改革に取り組みます。

大分支店は、支店の誰もがルールを守って規律を重んじ、互いに助け合って

仕事を行って成果を出し、その技術・技能を伝承する。そんな当たり前の組織となるように、支店一丸となり、誠心^{まごころ}をもって努力していきます。

＼健康のために / 「ウォーキング」

大分地区では「はつらつ健康運動」に直協で取り組んでおり、私の目標の一つは1日8,000歩以上歩くことです。就業時間のみでは難しく、夫婦で夜の散歩に行くこともあります。日頃の会話不足の改善という副産物もあるようです。



わずかに不足



夕方のパトロールで目標達成



大分支店長
安波 利明

設計・製造の技術伝承と育成と営業開拓へ

大型ヤード機械2台の 工事併進と立ち上げを完遂

第74期は、大型ヤード機械2台の工事併進と立ち上げを完遂し、営業面では鉞業向け新規顧客開拓から大型案件受注へつなげました。工場は若手主体で高難度の製缶技術を担保し、また設計ではベトナム協力会社への移管準備のため現地指導に着手するなど、将来につながる前進・成長と確かな手ごたえをつかみました。

業績面では円安、物価高による原価高騰や慢性的な要員不足、過勤務抑制も一因となり、一部の案件において予算未達や手戻りを出すなど、反省も多い1年でもありました。しかし、何より諸環境の変化に対し、全部員が柔軟に考え、果敢に挑戦したこれらの結果は、この先大きな実を結ぶものと考えています。皆さんの底力を改めて示していただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

海外アウトソーシングや デジタルツールで 生産性向上を目指す

私たちは、第77期までの受注量は確保しており、さらに無理してまでの上積みはいたしません。代わりに、ここ1～2年は事業部強化に軸足を置き、人材育成や業務改善に注力します。この先、少子化などで、さらに人材確保が難しくなっていきます。そのため設計業務のベトナムシフトをはじめ、グローバルでのアウトソーシングやデジタルツールを活用した生産性向上など、少ない要員・稼働時間でも、しっかり結果を出す“筋肉質な組織”に変身しましょう。また、この先のカーボンニュートラル、電気炉案件獲得のため設計・製造の技術伝承と育成、営業開拓にも取り組んでいきます。

＼健康のために / 「水泳・サウナ・水風呂」

学生のときにやっていた水泳を不惑の年に再開しました。週3日ほど泳ぎ、その後サウナと水風呂で心身をリセットし、次の日への活力にしています。特に週末は、帰宅後のビールが楽しみで頑張っています。



運動しても飲酒量は注意していますよ…

産機事業部長
北崎 美知



整備業界の転換期を迎え、守りの姿勢から攻めの姿勢へ

大型案件の受注や 新車販売の獲得で 計画を上回る収益確保

第74期オートライフセンターは、無災害を達成できました。しかしながら、ヒヤリハットや通勤時の交通事故などの発生で、悔やまれる1年となりました。この教訓を生かし、さらに全員で安全に対する意識向上を目指し、職場の同僚や部下とのコミュニケーションアップを図りながら、日々の管理・監督者のパトロールを増やすことで、タイムリーに不安全状態や不安全行動を見逃すことなく、先行的に取り組んだ結果が、無災害につながったと思います。

また、収益については、社会情勢の急激な変動などに対応しつつ、年々売上げが落ちる中、大型案件の受注や、新車販売の獲得などで、継続的に安定して事業を運営してきたことで、収益計画を達成することができました。日ごろから、現在への問題意識を持って行動してきた結果であり、常に、前期対計

画を目標に、さらなる向上を目指してきたことで、計画以上の収益確保ができたと思います。

全員が営業活動できる 整備士の育成を目指す

①安全作業で災害ゼロ

第74期に続き、入社3年未満の社員および中途採用者を中心とした安全性と作業の基本を目的とした月1回の教育を実施し、上司・同僚との対話時間を設け、オートライフセンター過去の災害事例を基に再教育を行うことで、風化させることなく自分の行動を見直し、是正するよう指導していきます。

②人材育成、雇用確保

オートライフセンターは、小型～大型車両、建設機械、特殊車両などの整備のほかに、部品販売、新車販売、板金塗装など、多種多様な車両を取り扱っています。技術・技能の豊富な人材を育成することが大切であり、一長一短で身に付く人はいません。毎日コツコツと

指導を重ねて、一人前の作業ができるよう育成するとともに、新たに経験豊富な人材の確保に努めていきます。

また全社員がフロント意識を持ち、お客さまから注文を受け、適切なアドバイスを行い、営業活動ができる人材育成を理想としています。

③収益確保

収益については、さらに向上させるためにも、前期よりも大型案件件数の獲得と新車および中古車販売で確保します。また、お客さまの他車両の獲得などでも、収益確保につなげていきたいです。昨今、整備業界が求められる守りの姿勢から攻めの姿勢への転換期を迎える昨今、全員が一丸となって新しいことに積極的にチャレンジしていきたいです。

＼健康のために / 「ドライブと入浴・食事」

週1回の温泉入浴を心掛けています。福岡・佐賀・大分・山口県へドライブと散策を兼ねて出かけ、各地の温泉でゆっくりと入浴し、体の疲れや日頃のストレスを解消したあと、その土地の特産物で食事をしています。



温泉・散策・食事で癒やします



オートライフセンター所長
和田 寛

目標・方法を決めて、全員の力で取り組む

事業所内の コミュニケーションを図り 明るい事業所を取り戻す

安全は、2021年9月以降、完全無災害を継続し、鉄鋼・エンジニアリングそれぞれのお客さまから完全無災害表彰をいただくなど、良好な状態を維持することができました。これは、日ごろから類災検討、安全6則に関する各現場での演練などを実施し、手順の再確認と改善を行ってきたことが、安全に対する意識の向上と実作業におけるリスク低減につながったと感じています。5月24日に軽処置災害を発生させてしまいましたが、全員が発生事案を理解して、対策に取り組み、二度と同様の災害が起きないようにしていきます。

第74期の事業環境は、前半は鉄鋼・エンジニアリングともに、計画を下回る状態でしたが、後半から通常レベルに回復し、日々お客さまの要請に応え、さらに良い状態につなげていくよう、事業所全員が取り組んでいるところです。コロナ禍を脱し、ようやく皆で集まれる機会をつくることができます。今後も、事業所内のコミュニケーションを図り、明るい事業所を取り戻していきたいと思っています。

新入社員を育て 事業所一体となり現場力を強化

安全最優先で仕事を進め、関係する方々が安全に、健康で明るく過ごせるように、事業を進めてまいります。全員で“自らと仲間を守る行動”を常に意識し行動することで、完全無災害を達成できるように、全員で取り組んでいきます。コロナ禍を脱し、お客さまの事業環境が回復していると感じます。常にお客さまのご要望にしっかり応えられるように、目標・方法を決めて、目標達成を目指して全員の力で取り組んでいきたいと思っています。

今期は、新たな視点で、現場の安全に対するリスクが低減できるような改善、さらに効率化が図れるような設備の開発・導入など、将来にわたって価値のある企業となる取り組みをしていきたいと思っています。新入社員3人が入社し、新入社員導入研修を終え、現場研修を実施しているところです。毎日、汗を流し頑張っています。若い力に、期待しています！

大阪事業所長 溝口 幸雄



＼健康のために / 「納豆を食べる」

近頃スポーツジムに通い始めましたが、昔みたいな動きには程遠く、衰えがっかりしながら運動しています。単身赴任ですので、唯一、食生活で心掛けているのは、納豆を毎日必ず食べることです。



免疫力を高めたいと思っています！

ハマダレクテック株式会社

2023年2月1日、濱田重工(株)シリコンウェハー事業部(旧名称)は、濱田重工(株)100%出資の新会社「ハマダレクテック株式会社」として事業を開始いたしました。永田社長に、会社設立から、現在までの「振り返りと今後の課題」と「第2期の抱負」を聞きました。

Mission・Vision・Valueで事業の成長を

2023年2月に 新会社としてスタート 会社機能の強化を通じて 着実な成長を

皆さまのご支援を賜りまして、ハマダレクテック(株)を順調にスタートでき、心より感謝申し上げます。業績面では、第1期後半からメモリー半導体市況悪化の影響もありましたが、年間では計画通りの実績となりました。また、2期連続の完全無災害達成、D棟増築工事着工、各種開発案件の進展など、さまざまな成果を得ることができました。今後の課題は、会社機能の強化を通じて着実な成長を実現していくことです。

企業としての価値向上を追求し 時代を画すテクノロジーで 半導体産業を支える

第2期の開始を機に、濱田重工の企業理念「^{まごころ}誠心」の精神を基本として、当

社のMVV(Mission・Vision・Value)を策定しました。会社が目指す方向性を具体的に示し、指針として、一人ひとりが共有、実践することで事業の成長につなげることが目的です。MVVでベクトルを合わせて事業計画などに展開し、実現を目指します。

【Mission】

人と技術の成長を志向し、^{まごころ}誠心を込めて未来社会の創造に貢献する。

【Vision】

企業としての価値向上を追求し、時代を画すテクノロジーで半導体産業を支え、信頼される存在になる。

【Value】

<社会に対する価値>

地球環境に優しい事業を展開し、持続可能な社会の実現に貢献するために、ESGに取り組みます。

<お客さまに対する価値>

ハイレベルなものづくりを実践するために、お客さまのニーズに応える

QCDSSを追求します。

<自己に対する価値>

柔軟な発想力と向上心を持って、課題に挑戦するバイタリティを発揮します。

<組織に対する価値>

風通しの良い職場風土とチームワークを構築するために、コミュニケーションを大切にします。

〈解説〉

MVV

Mission：組織・会社の使命
Vision：理想の組織像・会社像
Value：組織の価値観・価値基準

ESG

Environment
Social
Governance
※企業が長期的に成長するためには、経営においてESGの3つの観点が必要だ
という考え方が世界中で広まっています。

QCDSS

Quality
Cost
Delivery
Service
Safety

グループ会社
ハマダレクテック(株)
代表取締役社長
永田 竜也

＼健康のために / 「ウォーキング・ジョギング」

会社の定期健診でメタボが気になり、改善のために時間をつくってウォーキングや軽いジョギングを実行しています。有酸素運動はさまざまな生活習慣病に効果がありますので、健康管理のためにも続けていきたいと思っています。



走ること心身が元気に

生き生き働いている若手社員のON/OFFを大解剖!
毎号、各部門の10代・20代の社員をクローズアップします。

ON
設備トラブルの
対応法を一つずつ覚えて
丁寧にこなす

ハマダレクテック株式の生産設備やユーティリティ設備の保全業務を行っています。多種多様な設備があり、専門的な仕事であるため、覚えることが多いです。現在は、トラブルの解決手段や、各装置の部品の役割を覚えることに苦勞しています。自分が行った仕事で、生産ラインの監督者の方に「ありがとう」と言われたときが一番うれしいです。



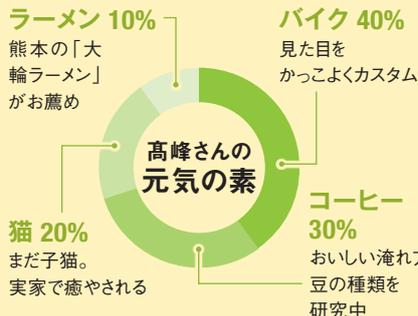
一人でできる仕事が増えていくこともやりがいです

どんな仕事も
丁寧に根気よく
設備の若手ホープ



ハマダレクテック株式会社
設備グループ
たかみね とうい
高峰 柊生さん(19歳)

2022年入社。高校時代から機械専攻で、恩師に薦められてハマダレクテックに興味を持ち、希望どおり設備グループに配属。専門知識を習得し、改善にも積極的に設備のエキスパートを目指している。



私も応援!



**専門的な知識も理解し、実践に生かす姿が頼もしい
岩田 直樹さん**

高峰くんは吸収力抜群で、設備の専門的な知識や対処法をしっかり理解して、業務に取り組んでくれます。改善活動をはじめ、自分が決めた目標に向かって努力する姿は、とても頼もしいです。私たちが仕事の励みになっています。

OFF
おいしいコーヒーを
淹れる

ORIGAMIドリッパーで、さまざまな国・農園の豆を購入して、ハンドドリップで淹れています。万人に受ける比率は、お湯150ミリリットルに対し、コーヒー豆10・11グラム。私は濃い目が好きなので、150ミリリットルに、コーヒー豆13・14グラムの比率にこだわっています。最近のおすすめはギリシャコーヒーです。甘さやすっきりとした味、香りにはまっています。一人の時間は自宅で映画を観ながら、コーヒーを楽しんでいます。



コーヒー豆は、ネットやカフェで購入します

OFF
SUPとバイクのカスタム

父親に誘われて始めたSUP(「スタンドアップパドルボード」の略称で、ハワイ発祥のウォータースポーツ)にはまっています。最初はうまくできませんでしたが、体幹が鍛えられて楽しいです。プライベートでもやりたいことが多く、沖縄旅行も実現したいです。



父親から「遊びに行くぞ!」と言われ、SUPは新しい趣味になりました



バイクにもはまっており、見た目をカッコよくカスタマイズ

ON
74期の
改善提案136件
気づいた点を改善につなげる

私の父親がかつて保全の仕事をしていた影響で、同じ仕事に就きたいと思っていました。設備グループの仕事は専門的で多岐にわたりますが、関心を持って取り組んでいます。上司・先輩たちから「少しずつ覚えてほしいよ」と優しい言葉をかけていただきますが、早く仕事を任せてもらえる人材になることが目標です。

今は改善活動に励んでおり、第74期では136件を提出しました。仕事に気づいた改善点はすぐに書類にまとめています。



係長やフォアマンが、私の改善案に助言をくださるため、ありがたいです

◆次号は大阪事業所のKirari輝く人をご紹介します。